

履歴および教育・研究活動の記録

杉 本 豊 久

I 履 歴

1 学歴

- 1967 年 4 月 立教大学文学部英米文学科入学
- 1971 年 3 月 立教大学文学部英米文学科卒業
- 1971 年 4 月 立教大学大学院文学研究科修士課程英米文学専攻入学
- 1975 年 3 月 立教大学大学院文学研究科修士課程英米文学専攻修了（文学修士）
- 1975 年 4 月 立教大学大学院文学研究科博士課程英米文学専攻入学
- 1980 年 3 月 立教大学大学院文学研究科博士課程英米文学専攻単位取得満期退学

2 職歴

- 1978 年 5 月 東京立正女子短期大学英米語学科専任講師（～1980 年 3 月）
- 1980 年 4 月 実践女子大学文学部英文学科専任講師（～1983 年 3 月）
- 1983 年 4 月 実践女子大学文学部英文学科助教授（～1986 年 3 月）
- 1986 年 4 月 成城大学文芸学部英文学科助教授（～2007 年 4 月）
- 2007 年 4 月 成城大学文芸学部英文学科准教授（～2010 年 3 月）
- 2011 年 4 月 成城大学文芸学部英文学科教授

2015 年 3 月 成城大学を定年退職

(非常勤講師)

1975 年 4 月 東海大学文学部第一外国語学科 (～1979 年 3 月)

1981 年 4 月 明治大学商学部 (～1987 年 3 月)

1982 年 4 月 中央大学商学部 (～現在に至る)

1984 年 4 月 立教大学文学部 (～2006 年 3 月)

1994 年 4 月 早稲田大学商学部 (～現在に至る)

Ⅱ 教育・研究活動

I. 論文

単独執筆：

1. 「米国黒人英語の最近の問題点—Invariant BE をめぐって—」『立教レビュー』第 1 号、1972 年 2 月。
2. “A Study of Nonstandard Negro English in its Phonological and Syntactic Features.” (修士論文) 1975 年 3 月。
3. 「米国黒人英語の否定構文—標準英語との比較—」『立教レビュー』第 5 号、1978 年 3 月。
4. 「Pidgin English—その発生と特徴—」『東京立正女子短期大学紀要』第 7 号、1979 年 3 月。
5. 「英語の省略構文」『立教レビュー』第 7 号、1980 年 3 月。
6. 「女性英語—その言語学特徴をめぐって—」『立教英米文学』第 40 号、1980 年 3 月。
7. “Some Phonological Features of Nonstandard Negro English.”『東京立正女子短期大学紀要』第 8 号、1980 年 3 月。
8. 「現代英語の変異性 (I) —イギリス英語の音韻的異種をめぐって—」

- 『実践英文学』第19号、1981年7月。
9. 「特集：世界の英語—黒人英語の特徴—」月刊『言語』（大修館書店）2月号、Vol. 11, No.2. 1982年2月。
 10. 「幼児英語（Ⅰ）—出生から一語文段階までの言語的特徴をめぐって—」『実践女子大学文学部紀要』第17集、1982年3月。
 11. 「現代英語の変異性（Ⅱ）—文法的異種をめぐって—」『実践英文学』第21号、1982年7月。
 12. 「接触言語の変容（Ⅰ）—ピジン・クレオールのリフサイクル—（Ⅰ）」、『成城大学文芸学部創立三十五周年記念論文集』、成城大学文芸学部、1989年2月。
 13. 「接触言語の変容（Ⅱ）—ジャマイカン・イングリッシュのリフサイクル（Ⅰ）—」、『成城文藝』第138号、成城大学文芸学部、1992年3月。
 14. “Demographic Aspects of Early Jamaican Creole.” *Seijo English Monographs*. No.28, Tokyo : Seijo University. 1993.
 15. 「言語接触と第2言語習得」、伊藤健三先生喜寿記念出版委員会編『現代英語教育の諸相（伊藤健三先生喜寿記念論文集）』研究社出版、1994年12月。
 16. “A Variety of Contact Language : Linguistic Aspects of Jamaican Creole and Black English Vernacular (Ⅰ)” *Seijo English Monographs*. No. 30, Tokyo : Seijo University. 1999.
 17. 「日本語助詞と英語前置詞の比較」、日英言語文化研究会編『日英語の比較—発想・背景・文化—（奥津文夫教授古希記念論集）』三修社、2005年4月。
 18. 「スコットランドにおける言語事情とグラスゴーのゲール語教育」、『成城文藝』第196号、成城大学文芸学部、2006年9月。

19. 「グラスゴー方言—その音韻・つづり字法・語彙—」、『成城文藝』第200号、成城大学文芸学部、2007年9月。
20. 「トク・ピシン (Tok Pisin) のつづり字法・語彙・句表現—その単純化と合理性—」、『成城イングリッシュモノグラフ』第40号、成城大学大学院文学研究科、2008年2月。
21. 「現代英語の変異性—トク・ピシン、ジャマイカン・クレオールおよびグラスゴー方言の音韻とつづり字の比較(1)—」、『成城大学共通教育論集』第1号、成城大学共通教育研究センター、2009年3月。
22. 「日英語の変異性—英語変種のつづり字表記と日本語カタカナ表記の比較分析—」、『成城文藝』第208号、成城大学文芸学部、2009年9月。
23. 「明治維新の日英言語接触—横浜の英語系ピジン日本語(1)—」、『成城イングリッシュモノグラフ』第42号、成城大学大学院文学研究科、2010年2月。
24. 「現代英語の変異性—トク・ピシン、ジャマイカン・クレオールおよびグラスゴー方言の音韻とつづり字の比較(2)—」、『成城大学共通教育論集』第2号、大学共通教育研究センター、2010年3月。
25. 「現代英語の変異性—卓球審判におけるカタカナ英語—」、『成城イングリッシュモノグラフ』第43号、成城大学大学院文学研究科、2012年3月。
26. 「娯楽世界のカタカナ表現」、『成城イングリッシュモノグラフ』第44号、成城大学大学院文学研究科、2015年3月。

共同執筆

1. “Exploring the Role of Attitude, Motivation and Gender in EFL Learning(1)”
(in collaboration with M. Rahimpour and M. Yaghoubi-Notash) *The Seijo Bungei*. (The Seijo University Arts and Literature Quarterly). No 197.
Faculty of Arts & Literature, Seijo University. December, 2006.

II. 口頭発表

1. 「黒人英語の最近の問題点」大学院英文学専攻課程協議会主催第5回研究発表会（於：聖心女子大学）1971年11月。
2. 「Washington, D. C. における黒人英語— /θ/・/ð/ 及び語尾子音 /t/・/d/ の単純化をめぐる—」大学院英文学専攻課程協議会主催第6回研究発表会（於：立教大学）1972年11月。
3. 「米国黒人英語の音韻論的特徴とその意義について」プロスペロ月例会（於：立教大学）1974年5月。
4. 「現代英語の変種間の相互関係について」大学英語教育学会第21回全国大会（於：同志社女子大学）1982年10月。
5. 「社会言語学—米国における最近の動向—」大学英語教育学会応用言語学研究会（於：上智大学）1983年7月。
6. 「JACET 基本語第2次案の検証—教材分析と語彙分類を中心に—」大学英語教育学会第23回全国大会（於：上智大学）、1984年10月。
7. 「現代英語の変異性再考—ピジン・クレオール化現象の観点から—」大学英語教育学会月例会（於：研究社英語教育センター）、1991年10月。
8. 「コミュニケーションのための英文法」JACET 英語教育セミナー（於：上智大学）、1992年3月。
9. “Aspects of Language Contact — Pidgins and Creoles” 第12回国際応用言語学会（於：早稲田大学）、1999年8月。
10. “The Phonology and Orthography of Glasgow English” JACET 英語辞書研究会ワークショップ（於：京都外国語大学）、2007年3月。
11. 「言語接触の諸相：スコットランドの言語事情とゲール語教育」大学英語教育学会関東支部大会第1回プレリミナリーセッション（於：立教大学）2007年6月。
12. 「現代英語の変異性—トク・ピシン、ジャマイカン・クレオール及び

グラスゴー方言の音韻とつづり字の比較」大学英語教育学会英語辞書研究会ワークショップ（於：成城大学）、2009 年 3 月。

13. 「ライトニングトーカー辞書と私ー：英語のつづり字に見られる現代英語の変異性の扱い」電子辞書研究会例会（於：カシオ計算機 K.K. 本社）、2009 年 3 月。
14. 「英語つづり字と日本語カタカナ表記の共通点」日英言語文化学会第 5 回年次大会（於：明治大学駿河台校舎）、2009 年 6 月。

Ⅲ. その他

辞典類

1. （項目執筆）松浪有・池上嘉彦・今井邦彦編『大修館英語学事典』、大修館書店、1983 年、「第 10 章 世界の英語」の内、「V ピジン英語（1085-1094 頁）」合計 10 頁を担当。
2. （項目執筆）船戸英夫編『アメリカ・イギリスもの知り百科事典』、日本英語教育協会、1984 年、「§ 69 イギリス英語とアメリカ英語」（687-697 頁）、「§ 70 標準英語と方言」（698-730 頁）、合計 44 頁を担当。
3. （項目執筆）森住衛、斉藤栄二、垣田直己他編『英語教育教材事典』、大修館書店、1987 年、「第 2 章 句読法（16-21 頁、309-310 頁）合計 8 頁を担当。
4. （項目執筆）大庭 勝、村石利夫編『英語話題事典』、ぎょうせい。1991 年、第 22 章言語「英語と米語の特色、キングズ・イングリッシュ、外来語、ローマ字、敬語表現、言葉遣いに潜む心理、女・男言葉等」（295～309 頁）及び「同義語・類義語の区別、ニュアンスの違い、比喩に見る文化の違い、成句・慣用句・ことわざの由来、等」（331-339 頁）合計 18 頁を担当。
5. （項目執筆）島岡 丘、枅矢好弘、原口庄輔編『音声学・音韻論』（寺

澤芳雄監修<英語学文献改題 第6巻>)、研究社、1999年、「William J. Hardcastle. *Physiology of Speech Production : An Introduction for Speech Scientists*. London : Academic Press. 1976.」(2頁)、「K. R. Lodge. *Studies in the Phonology of Colloquial English*. London : Croom Helm. 1984.」(1頁) 合計3頁を担当。

記事・書評等

1. (書評)「『茶の世界史』(角山栄著、中公新書)」『英日ニュース (Anglo-Japan News)』No.9, 1981年。
2. (書評)「『イギリスの経済事情』(波野崇好著、日本放送出版協会)『英日ニュース (Anglo-Japan News)』No.12, 1982年。
3. (連載記事)「海外論考探訪(55) 社会言語学—最近の William Labov の研究成果(1)—」月刊『英語教育』(大修館書店)4月号(Vol. XXXII, No.1) 1983年。
4. (連載記事)「海外論考探訪(56) 社会言語学—最近の William Labov の研究成果(2)—」月刊『英語教育』(大修館書店)5月号(Vol. XXXII, No.2) 1983年。
5. (連載記事)「ラボフ博士の連続講演②: 現代英語の変異性—語尾子音と否定構文—」月刊『英語教育』(大修館書店)1月号(Vol. XXXII, No.11) 1984年。
6. (連載記事)「ラボフ博士の連続講演④: 現代英語の変異性—否定の強調と受動・完了相—」月刊『英語教育』(大修館書店)9月号(Vol. XXXIII, No.7) 1984年。
7. (学会誌研修報告記事)「新しい教育を考える: 海外研修報告—ジャマイカの英語—」月刊『ことばと教育』(三省堂)2月号, No. 11, 1984年。
8. (特集記事)「特集: ピジンとクレオール—ピジンとは何か、クレオー

- ルとは何か―」月刊『言語』（大修館書店）11月号、Vol. 14, No. 11、1985年。
9. （特集囲み記事）「『ルーツ』のピジン語」月刊『言語』（大修館書店）11月号、Vol. 14, No. 11、1985年。
 10. （書評）「『フットボールの社会史』（E. P. マグーン Jr. 著、忍足欣四郎訳、岩波書店）」『英日文化』No. 27、1986年。
 11. （書評）「*Cambridge Encyclopedia of Language* (David Crystal, Cambridge University Press)」『JACET 通信』1989年。
 12. （特集記事）「特集：＜ことばの教育＞を深める―リーディング指導の可能性―」『三省堂英語教育』（三省堂）No. 13、1992年。
 13. （研究報告）「JACET の諸活動―英語教育メディア研究開発委員会」『大学英語教育学会創立 30 周年記念誌』大学英語教育学会、1992年。
 14. （連載記事）「大学の教育改革と英語教育⑧：教材―その役割の多様性」月刊『英語教育』（大修館書店）、11月号、Vol. 42, No. 10、1993年。
 15. （報告記事）「コミュニケーション活動とその観点別評価―第3回 JACET 英語教育セミナーから―」『三省堂英語教育』（三省堂）、No. 28、1994年。
 16. （連載記事）「外国語教材論⑧：教材と言語材料（2）言語の多様性（変種）」月刊『英語教育』（大修館書店）、11月号、Vol. 43, No. 9、1994年。
 17. （書評）「『異文化理解とコミュニケーション 1―言葉と文化―』（本名信行、他編著、三修社）」『現代英語教育』（研究社）11月号、1994年。
 18. （特集記事）「（特集：＜コミュニケーション＞再考）より深い内容理解を目指して」、『三省堂英語教育』（三省堂）、No. 30、1995年6月。
 19. （特集記事）「（特集：外国語としての自国語の教育と普及―イギリス編―）イギリスにおける教師・通訳・翻訳者の養成と派遣・研修」、『日本語学』（明治書院）12月号、Vol. 14, No. 13、1995年。

20. (調査報告)「大学の外国語(英語)教育における点検・評価:外国語授業の実態⑤」月刊『英語教育』(大修館書店)、2月号、Vol. 45、No. 13、1997年。
21. (特集記事)「題材の理解を深める」、『三省堂英語教育』(三省堂)、No. 35、1997年7月。
22. (特集記事)「<国際理解>の授業の基本」、『三省堂英語教育』(三省堂)、No. 37、1998年7月。
23. (エッセイ)「四季散策:英語の学習法「動き」で捕える」、『教育じほう』第608号、1998年7月。
24. (エッセイ)「巻頭エッセイ:国際会議は多言語社会のシュミレーション」『三省堂英語教育』(三省堂)、No. 40、1999年9月。
25. (特集記事)「教師にとって・生徒にとって教科書・教材とは」、『三省堂英語教育』(三省堂)、No. 44、2001年4月。
26. (特集記事)「(特集:「爆発」する英語)グローバル英語の時代」、『英語教育』(大修館書店)、5月号、Vol. 50、No. 2、2001年。
27. (訳編・単著)『OK! ビジネス英語 (OK! Business English)』、三修社、2003年8月。
28. (訳編・単著)『OK! 英語の発音 (OK! English Pronunciation)』、三修社、2003年11月。
29. (訳編・単著)『OK! アメリカ英語 (OK! American English)』、三修社、2004年6月。
30. (エッセイ)「私と卓球、そして英語」、『成城教育』(成城学園教育研究所)、第124号、2004年6月。
31. (エッセイ)「巻頭言:グラスゴーでのフィールドワーク雑感」AJELC Newsletter (日英言語文化研究会) 第11号、2007年4月。
32. (教科書・分担執筆)「第15章:スコットランドの言語事情とグラス

ゴー方言」矢野安剛・池田雅之編『英語世界のことばと文化』、成文堂、2008年4月。

33. (教科書・分担執筆)「第18章：世界のピジン・クレオール英語―言語接触の諸相―」矢野安剛・池田雅之編『英語世界のことばと文化』、成文堂、2008年4月。
34. (翻訳・分担執筆)『スラムドッグ ミリオネア (*Slumdog Millionaire*)』、株式会社フォーイン、2009年4月。
35. (翻訳・分担執筆)『ナイアガラ』、株式会社フォーイン、2009年10月。
36. (エッセイ)「文芸学部の英語教育の諸相」、『成城教育』(成城学園教育研究所)、第148号、2010年6月。
37. (エッセイ)「巻頭言：風、明治維新の横浜ピジン」、『パドック』(日本中央競馬会)、第35巻5号(通巻第342号)、2012年9月。

その他の教育・啓蒙業績

1. 「NHK 教育テレビ：中学校実力養成講座」講師。(1987～1988年)
2. ホノルル市長杯全日本青少年英語弁論大会審査委員(1990～現在に至る)
3. 「NHK テレビ英会話」講師。(1995～2000年)
4. (教材作成・共著)『*Access to Effective Reading* (リーディング・スキルアップ)』三修社。1995年2月。
5. (教材作成・翻訳・項目執筆)『NHK テレビ英会話：名探偵ホームズとワトスン博士』日本放送出版協会、4月～12月、1995年。
6. (教材作成・翻訳・項目執筆)『NHK テレビ英会話：消された記憶 (*The Lost Secret*)』日本放送出版協会、4月～9月、1996年。
7. (教材作成・翻訳・項目執筆)『NHK テレビ英会話：ウィリアムくんようこそ! (*Cousin William*)』日本放送出版協会、1996年10月～1997

年3月。

8. (教材作成・翻訳・項目執筆)『NHK テレビ英会話：小さな町に素敵な仲間 (*Just Be Yourself!*)』日本放送出版協会、1997年4月～1997年9月。
9. (教材作成・翻訳・項目執筆)『NHK テレビ英会話：がんばれ！ウィリアム (*Cousin William*)』日本放送出版協会、1997年10月～1998年3月。
10. (教材作成・翻訳・項目執筆)『NHK テレビ英会話：ウィリアムにご用心！ (*Cousin William*)』、日本放送出版協会、1998年10月～1999年3月。
11. (教材作成・共著)『英語リスニング練習帳』ベレ出版、1999年8月。
12. (教材作成・翻訳・項目執筆)『NHK テレビ英会話：その名はウィリアム (*Cousin William*)』、日本放送出版協会、1999年10月～2000年3月。
13. (教材作成・単著)『*Is It Legal?* (英国コメディーで楽しむ総合英語)』、金星堂、2002年。
14. (教材作成・共著)『*UK Made Easy* (英国事情早わかり)』三修社、2002年。
15. (教材作成・共著)『*In-Depth Reading* (パラグラフの読みと深化)』、南雲堂、2004年。

学会活動

1. 大学英語教育学会 (The Japan Association of College English Teachers) 会員、研究企画委員幹事、全国大会運営委員長 (1997～2000年)、JACET 賞委員長 (1998～2003年) 副代表幹事 (1999～2002年)、理事 (2003～2005年)。
2. 日本英文学会会員、評議委員 (2002年～現在に至る)。

3. 国際応用言語学会会員、第12回国際応用言語学会運営委員（1997～1999年）。
4. 外国語教育メディア学会（The Japan Association for Language Education and Technology）会員。
5. 日本言語政策学会会員、第2回日本言語政策学会研究発表会実行委員長（於：成城大学、2003年6月）。
6. 日英言語文化学会理事（2008年～現在に至る）。

受賞・受章

「教材研究委員会—JACET基本語彙の研究—」にて、大学英語教育学会賞（JACET賞）を受賞。1986年9月20日。

学内委員（成城大学）

1. 計算機センター委員 1988年11月～1989年4月。
2. 研修委員 1991年4月～2000年3月（研修委員会委員長1997年～2000年3月）。
3. 広報委員会委員 1997年4月～1998年3月。
4. 就職委員 1994年5月～1996年4月、2000年5月～2002年4月、2006年5月～2007年4月。
5. 英文学科主任 2001年5月～2004年3月。
6. 入試管理委員会委員 2001年5月～2004年4月。
7. 国際交流委員会委員 2004年4月～2005年3月。
8. 全学共通教育運営小委員会委員 2006年4月～2008年3月。
9. 全学共通教育運営小委員会・外国語科目作業部会部会長 2006年4月～2008年3月。
10. 学部教務委員 2006年4月～2009年3月。